

- 夏秋黄色ギクにおいて無側枝性で商品化率並びに市場評価が高い新品種の導入が求められていた。
- このため普及組織では、JAと連携し、無側枝性で商品化率が高い夏秋黄色ギクの新品種導入を推進し、実証展示ほ設置や栽培マニュアル作成等の技術支援を実施するとともに、実需者との意見交換会を開催。
- その結果、新品種について産地並びに需要者からも評価が高いことが実証でき、現地への普及定着(晃花の宝：1.8ha、精の光彩：0.4ha)が進んだ。

## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

### 1 新品種の栽培技術確立・普及

#### ■ 夏秋ギク新品種の定着

##### ① 作付面積

精の光彩：0ha→0.4ha

晃花の宝：0ha→1.8ha

##### ② 生産者数

精の光彩：0名→4戸

晃花の宝：0名→13戸

##### ③ 芽摘み労力時間削減率(既存品種比較)

精の光彩：73%

晃花の宝：86%

表1 栽培面積の推移 (単位：a)

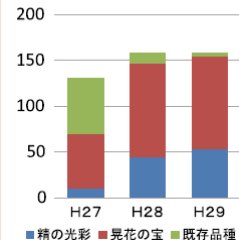
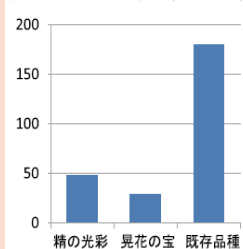


表2 芽摘み労働時間比較 (h/10a)



### 2 栽培マニュアル作成

■ 新品種の普及・定着を図るため、栽培マニュアルを200部作成し、夏秋ギク栽培農家並びに関係機関(JA、花市場)、普及組織に配布した。



### 3 夏秋ギクの出荷量増大

■ 既存品種と比較し、商品化率が高く、10a当たり収量が2割増収した。

\*商品化率

晃花の宝：85%

精の光彩：90%

既存品種：65%



#### 平成27年

■ 夏秋ギク新品種「晃花の宝」「精の光彩」の普及・定着を図るため、JAと連携し、栽培実証展示ほを設置。

■ 新品種の栽培技術確立、技術習得のため、展示ほを核とした現地検討会を開催

#### 平成28年

■ 新品種の栽培上の課題解決を図るため実証ほを設置。

■ 新品種の栽培技術確立、技術習得のため、展示ほを核とした現地検討会開催

#### 平成29年

■ 新品種の普及・定着及び面積拡大のため、生産安定技術実証ほの設置、展示ほを核とした現地検討会開催、先進事例調査、実需者との意見交換会、栽培マニュアル作成会議開催

## 普及指導員だからできたこと

・ 日頃から現場の課題を把握しており、併せて専門技術を持ち、試験場や他県の情報を知る普及指導員であることから、新品種の普及・定着による生産振興を提案し、地域に適した栽培方法を定着させることが可能。

・ 日頃から連携している先進農業者、JA、研究機関、県行政、花市場等の関係者を結びつけ、新品種の生産振興に向けた産地全体の取組を進めることができた。

## 夏秋ギク新品種の生産振興(新品種の普及・定着)

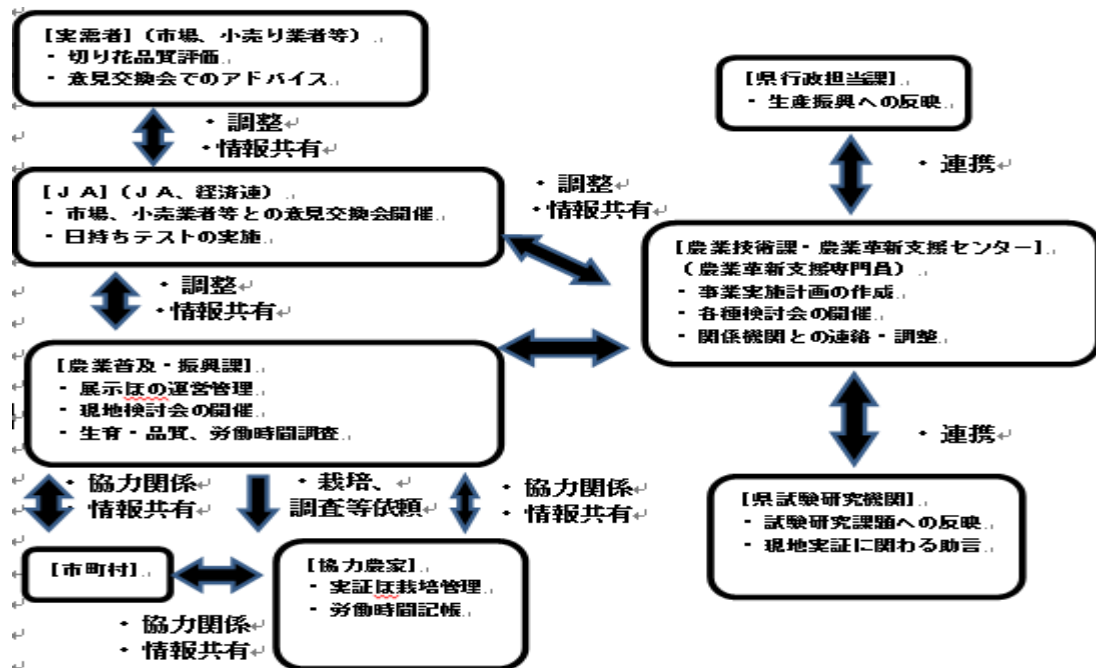
活動期間：平成27～29年度

### 1. 取組の背景

- ・夏秋期の黄輪ギクは、曲がりやすく、脇芽を取る作業に時間がかかるとともに市場評価も高くない。脇芽を摘まなくてよく（無側枝性）、品質の良い新品種が開発され、農家からは、それらの導入が求められていた。
- ・関東地域の市場では、7、8月のお盆花と9月彼岸用の需要が多く、その時期に安定的に出荷できる産地を求めている。
  - ・農家の経営安定並びに計画的な生産出荷ができ市場から期待される産地となるためには市場性の高い新品種を地域への普及定着を図ることが重要である。

### 2. 活動内容（詳細）

平成27～28年度は新品種の栽培技術の確立と栽培推進のため、実証展示ほ設置並びに展示ほを中心とした現地検討会を普及指導員、JA指導員、県行政機関、農研センターと連携、平成29年度は産地ブランド発掘事業により上記関係機関と併せて経済連販売部署や実需者と連携して市場性の高い品種の普及・定着に取り組んだ。



産地ブランド発掘事業の実施体制フロー図

\* 平成29年度活動実績

- ①実証展示ほ設置等検討会 4月
- ②夏秋ギク新品種の生産安定技術実証ほ設置(鹿本地域、球磨地域)及び生育並びに品質、労働時間調査並びに現地調査支援 5月、6月、7月、8月
- ③展示ほを核とした現地検討会 開催 6月、7月
- ④夏秋ギク先進事例調査研修 7月(宮崎県)
- ⑤実需者との意見交換会(求評会) 8月(3東京市場)
- ⑥成績検討会並びに栽培マニュアルの作成会議 1月



現地検討会写真



求評会写真

### 3. 具体的な成果(詳細)

#### (1) 新品種の栽培技術確立・普及

##### ①夏秋ギク新品種の栽培面積(平成29年度)

‘精の光彩’: 0.4ha ‘晃花の宝’: 1.8ha

##### ②生産者数(平成29年度)

‘精の光彩’: 4戸 ‘晃花の宝’: 13戸

##### ③芽摘み労力時間削減

率(既存品種比較)

‘精の光彩’: 73% ‘晃花の宝’: 86%

\* 晃花の宝においては開花遅延対策として消灯日を前年より4日早めたことから本年はほぼ計画的な出荷ができた。

\* 慣行品種に比較し、大幅に芽摘み労力が削減でき、商品化率が高いことから、今後も新品種への切替えが増える見込みである。(鹿本地域は9割切替え済、球磨地域は今後切替えが進む見込み)

#### (2) 栽培マニュアル作成・配布(200部)

新品種の普及・定着を図るため、栽培マニュアルを200部作成し、夏秋ギク栽培農家並びに関係機関(JA、花市場)、普及組織に配布した。

夏秋ギク新品種(晃花の宝、精の光彩)栽培マニュアル



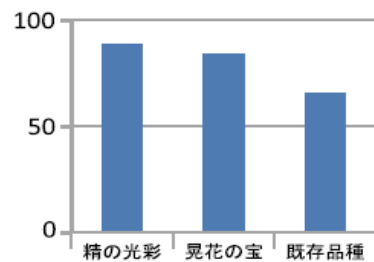
熊本県農林水産部生産経営局農業技術課

### (3) 夏秋ギクの出荷量増大

既存品種と比較し、商品化率が高く、  
10aあたり収量が2割増収した。

商品化率 精の光彩：90%  
          晃花の宝：85%  
          既存品種：65%

表3 商品化率比較 (%)



### (4) 実需者評価と産地の販売戦略による品種の選定

平成29年8月に東京3市場や生花店や花束加工業者と意見交換会での新品種の評価は以下のとおり。

・「精の光彩」は、一般生花店の評価も高く、小売り、量販店ともに対応できる品種として高い評価であった。「晃花の宝」は一般生花店の意見では、従来のと比較すると花首が長い、花がやや小さい、花の開き方が早いなどの指摘があり、量販店を中心とした物日(7月と8月の盆、9月彼岸)販売に向く品種との評価が大勢であった。日持ち調査ではいずれの品種も2週間の日持ちについては問題ない状況であった。

## 4. 農家等からの評価・コメント (鹿本町A氏)

夏秋ギクの栽培において、既存品種は芽摘み労力が多くかかり併せて高温期のため作業に苦勞していました。また、曲りが多いことや生育が不揃いで商品化率が低かったため反収も上がらない状況でした。今回、導入された新品種は芽摘み時間が大幅に削減できたことから高温期の作業もだいぶ楽になりました。また、生育が揃い商品化率も高く反収も増えました。今後は、全面的に新品種へ転換を図っていきたいと思います。

## 5. 普及指導員のコメント (鹿本農業普及振興課 参事 櫻森晶子)

今回、新品種の導入にあたって、複数の産地で栽培実証に取り組むとともに、実需者による切り花評価を行うなど、品種の特性及び市場性を調査し、その結果をしっかりと産地に示したことで、新品種の普及・定着が進んだと考える。今後、作成した栽培マニュアルを活用することで、より一層の品質向上と栽培面積の拡大が図られ、産地強化が期待できる。

## 6. 現状・今後の展開等

### (1) 品種の選択

販売の形態が変化し、一般生花店が減り、量販店が増えていく中、前述の市場評価を踏まえ今後は産地としてどちらをターゲットにした産地化を進めていくか、また、施設導入(精の光彩はシェード施設が必要)に伴う費用対効果を踏まえて、品種の選択する必要がある。

(2) 更なる安定生産への取組み

小売り、量販店とも対応できる「精の光彩」については、シェード未整備施設では事業等によりシェード施設を整備し、栽培を推進する。

「晃花の宝」については、シェード施設がないほ場或いは今後もシェード施設の計画がないほ場では、気象条件に応じた消灯時期の調整や花首長の改善に取組み、物日（8月盆、9月彼岸）の量販店向け予約相対を照準にしっかり作り上げる。